

給食の“おいしい”をつくる人

生産者さんに会いに行ってみた



つくばブルーベリー協議会

25年育て続ける ブルーベリーの実り

つくばブルーベリー協議会長の久松さんの圃場では、お母さまが約25年前に植えたブルーベリーの木を受け継ぎ、大切に育てています。早生品種と晩生品種を組み合わせることで、6月から8月まで長く収穫できるのが特徴です。晩生品種の木は40～50年育て続けることができ、中には樹齢25年を超える木もあります。収穫前には除草を行います。農薬は使用せず、自然に近い環境で栽培。長い年月をかけて育まれたブルーベリーが、毎年たくさんの実をつけています。

ブルーベリーを通して広がる 地域とのつながり

つくばブルーベリー協会では、生産者同士が協力しながら栽培や加工、販売に取り組んでいます。冷凍ブルーベリーやジャムを備蓄することで、年間を通じて学校給食にも提供することができます。また、市民が収穫を楽しめる「ブルーベリーオーナー制度」も実施しており、地域の人が農業に親しむ機会づくりにも力を入れています。

あとがき

小さな一粒を手で丁寧に収穫されていることに驚きました。つくば市では、ジャムに加工したブルーベリーを毎年秋頃に提供しています。甘さと酸味のバランスが良く、子どもたちに大人気です。生産者さんの想いを、改めて子どもたちに伝えていきたいと思います。〔桜学校給食センター 管理栄養士〕

一粒ずつ丁寧に収穫

ブルーベリーの収穫は、実が傷みにくい朝6時頃から始まります。成熟した実だけを一粒ずつ丁寧に摘み取り、その日のうちに選別・出荷されます。一般的には1本から約1.5kgほど収穫されますが、この圃場では約5kgもの実をつける木もあり、日頃の丁寧な管理の成果がうかがえます。

